

教科・学科	地歴	科目	地理A	単位数	2	学年	3
使用教科書	高等学校 新地理A		発行者の番号・略称	46 帝国		教科書の番号	地A 308
	新詳 高等地図			46 帝国			地図 310
指導者名			副教材等	・図説地理資料 世界の諸地域NOW2016・高等学校新地理Aノート			

1 学習の到達目標

現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 学習の計画(どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む)

以下のことについて、年間を通して学ぶ。

単元名	項目	学習のねらいと学習活動(指導内容)
第1部 世界の諸地域の姿と地球的課題	第1章 地球儀や地図からとらえる現代社会 1地球上の位置と国家 ①地球上の位置 ②時差 ③球面と平面 ④国家の領域 2グローバル化が進む世界 ①結びつきを強める現代社会 ②世界を結ぶ交通 ③世界を一つに結ぶ通信 ④世界の貿易 ⑤国際化と人々の移動 第2章人間生活を取り巻く環境 1生活に影響を与える環境条件とは 2人々の生活と機構 ①様々に変化する大地 ②世界の大地形と人々の生活 ③山地平野の地形と生活 ④海岸地形と生活 ⑤水河・カルスト・乾燥地形と生活 3人々の生活と気候 ①熱帯の気候と生活 ②乾燥帯の気候と生活 ③温帯の気候と生活 ④亜寒帯・寒帯の気候と生活 4人々の生活と産業 ①世界の農業と工業 5人々の生活文化 ①生活と宗教・言語の関わり ②生活文化のグローバル化 第3章 世界の諸地域の生活文化 1中国の生活文化 ・都市の生活 ・巨大な人口 ・13億の人口と農業の変化 ・豊富な労働力と工業 2韓国の生活文化 ・自然環境 ・歴史と交流 ・産業の発展と生活の変化 3東南アジアの生活文化 ・都市と農業 ・工業の発展とASEAN 4インドの生活文化 ・ヒンドゥ教徒の生活 ・産業の発展 5西アジアの生活文化 6アフリカの生活文化 7ヨーロッパの生活文化 ・国境を超えて結びつく ・統合による産業変化 ・多民族多文化の共生 8ロシアの生活文化 ・極東の生活と日本とのつながり ・産業と日本とのつながり 9アメリカの生活文化 ・様々な民族 ・国際化するアグリビジネス ・先端技術産業の発展と工業の変化 10ラテンアメリカの生活文化 ・産業とその変化 11オーストリアの生活文化 ・内陸部の生活と農業 ・自然を生かした産業と世界の結びつき 12地球的課題と私たち ・環境問題・人口問題・食糧問題	・地球儀と世界地図の比較、略地図などを通して、地球表面上の大陸と海洋の形状や各国の位置関係、方位、時差及び日本の位置と領域などについて理解する。 ・交通・通信の発達、人や物の国際間の移動などに関する資料の収集、分析などを通して、諸地域間の相対的な位置、距離関係が変化し、人々の地理的視野が拡大すると共に国家間の統合や国際貿易などが活発化、複雑化していることをに気づく。 ・世界各地の消費や余暇に関する行動、観光、ボランティア活動などに関する資料の収集、分析などを通して、世界の人々の多様化する行動を地理的環境に関連付けて理解する。 ・生活圏、行動圏に見られる世界と結びつく諸事象の地域調査やその結果の地図化などを通して、身近な地域の国際化の進展や日本と世界との結びつきの様子に気づく。 ・世界の自然環境は、地域によって大きく異なり、地形・気候などによって違うことを理解する。それらが人間生活にどのように影響を与えているか考える。 ①様々な地形と人間生活 ②気候と人間生活 ③自然環境以外の生活文化に影響を与えるもの ・世界諸地域の生活・文化を地理的環境や民族性と関連付けて追究し、生活・文化を地理的に考察する視点や方法を身につけるとともに、異文化を理解し、尊重することが必要であることを身に付ける。 ①中国の生活文化 ②韓国の生活文化 ③東南アジアの伝統文化や生活の変化 ④インドの暮らしや文化・宗教と生活の関わり・産業変化 ⑤西アジア諸国におけるイスラームと生活の関わりについて石油資源と経済の関わりについて ⑥様々な民族と文化の様子と国が抱える問題について ⑦一体化が進むヨーロッパの実情・EU全体の産業の特徴 ⑧日本と関係が深いロシア・日本企業とロシア ⑨アメリカの多文化社会と発展を遂げた産業・アグリビジネス企業の成長理由・先端技術産業の発達と影響 ⑩ラテンアメリカにおける文化の多様性を先住民や歴史の観点からとらえる ⑪オーストラリアの多文化社会・気候に適した産業 ⑫環境、資源・エネルギー、人口、食料及び居住・都市問題を地球的及び地域的視野から追究し、地球的課題は地域を越えた課題であると共に地域によって現れ方が異なっていることを理解し、それらの問題解決にあたっては、各国の取り組みと共に国際協力が必要であることを理解する。

<p style="text-align: center;">第2部 身近な地域の 課題</p>	<p>第1章 身近にある様々な地図</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な地図とその特色 ・GIS技術の仕組み ・GIS技術の活用と地図 ・目的に合わせた地図の作成 <p>第2章 日本の自然環境と防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の自然環境 ・火山災害と防災 ・地震被害と防災 ・風水害と防災 ・身近な地域の防災を考える <p>第3章 身近な地域の課題と地域調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の設定 ・課題の調査 ・調査内容の発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活圏の諸課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて考察し、地理的技能及び地理的な見方や考え方を身につける。 ・身近にある地図には一般図と主題図があることを理解する。 ・GISやGPSの仕組みについて理解し、それを活用することでどのような地図を作成することが可能になるかを理解する。 ・情報を地図化する方法を習得し、自分で地図を作成する。 ・地図を作成する際の留意点を理解する。 ・日本の地形や気候の特徴を捉え、その自然環境がどのような自然災害と結びつくか考える。 ・火山災害・地震災害・風水害にどのようなものがあるか理解し、災害に備えた取り組みや防災について考える。 ・身近な地域で発生しやすい災害を予測し、被害を軽減するために自分たちに何ができるか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・生活圏の課題などを取り上げ、地図化作業をして、その解決に向けた取り組みなどについて探求する。 ・まとめたことを発表する。
-----------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※年間指導計画は予定であり、変更する場合があります。

教科・学科	公民	科目	公共	単位数	2	学年	1
使用教科書	公共		発行者の番号・略称	7 実教		教科書の番号	公共704
指導者名			副教材等	クローズアップ公共2022(第一学習社)			

1 学習の到達目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。

2 学習の計画(どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む)

月	単元名	項目	学習のねらいと学習活動(指導内容)
4 ・ 5	第1部 公共の扉	【倫理】 第1章 社会を作る私たち 第2章 人間としてよく生きる 第3章 他者とともに生きる 第4章 民主社会の倫理 【政治】 第5章 民主国家における基本原理	青年期の特徴について、心理学視点から自分の置かれている状況を理解する。 他者と関わる中で、個性がどう形成されるか、欲求とどう向き合うか、考える。 現代社会の雇用の現状と課題を把握し、どのように社会参加をするか、考える。 身の回りの物と関連づけながら、日本の生活文化や伝統文化について理解する。 世界の様々な宗教を理解し、宗教の持つ意味について考える。 理想的な人間の生き方、科学的な思考、自由などについて、哲学者の考えを知る。 個人の幸福と社会全体の幸福の関係性や、公正な社会について考える。 人間の尊厳と平等、自由と責任について、考える。 社会における対立がどう調整されているのかを知る。 民主政治の基本原則やその仕組みと課題を知る。
6 ・ 7 ・ 9	第2部 よりよい社会の形成に参加する私たち	【政治】 1現代の民主政治と日本国憲法 第1章 日本国憲法の基本的性格 第2章 日本の政治機構と政治参加	日本国憲法の成立背景や大日本帝国憲法との相違を考える。 憲法の三大基本原則を知る。 憲法で保障されている多様な人権について理解する。 憲法9条と自衛隊、防衛問題などから、平和主義について考える。 国会・内閣・裁判所の仕組みと特徴について理解する。 マスメディアと世論の関わりについて考える。 現代日本において国民の政治参加がどのように行われているかを理解する。
10 ・ 11 ・ 12		【経済】 2現代の経済社会と国民生活 第1章 現代の経済社会 第2章 日本経済の特質と国民生活	経済の基礎的な仕組みと概念について理解する。 景気・物価変動の原因を理解する。 経済をはかる「ものさし」について理解する。 財政政策や金融政策とはどのようなものかを理解する。 日本経済が歴史的にどのようにして成長してきたのかを理解する。 企業の役割について理解する。 日本の農業をとりまく問題や、消費者問題について理解する。 労働者に認められている権利を知る。
1 ・ 2		【国際】 3国際社会と人類の課題 第1章 国際政治の動向と課題 第2章 国際経済の動向と課題	第二次世界大戦後、国際社会がどう展開してきたのかを理解する。 世界平和を実現するための国際連合という組織の仕組みを知る。 核兵器などの大量破壊兵器の現状について理解する。 国際協力の現状を理解し、日本に期待されている役割を考える。 グローバル化に伴い、モノや金がどのように世界を行き来しているのかを知る。 地域的な経済統合、自由貿易協定について、現在の状況を知る。 発展途上国のために日本ができることを考える。
3	第3部 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	持続可能な社会を目指して	持続可能な社会の実現のために人類が直面している課題を知る。 どのようにして対応していけばよいか、考える。 課題の例 ・生命倫理 ・地球環境問題 ・情報 ・資源問題 ・エネルギー問題 ・少子高齢化 など

※年間指導計画は予定であり、変更する場合があります。

3 評価の観点

知識・技能	現代の社会における重要な問題を探求するに際し、基本的な内容を理解し、有用な情報を適切に収集・選択し、効果的に活用することができる。
思考・判断・表現	現代の社会における重要な問題から課題を見だし、社会的事象の本質を多面的・多角的に考察し、社会の変化や多様な考え方を踏まえ公正に判断し、表現できる。
主体的に学習に取り組む態度	現代の社会における重要な問題に対する関心を高め、意欲的に学習すると共に、社会的事象を考察する態度や、平和で民主的な社会の実現のために社会に参加・協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての自覚を深めようとしている。